

(様式1・小学校用①)

令和2年度 学校評価報告

草加市立青柳小学校

(令和3年1月26日作成)

1 学校教育目標 あ 明るく元気な子 お 思いやりのある子 や やりとげる子 ぎ きたえる子	
2 重点目標・努力目標 ・基礎基本の徹底 ・草加市「授業の5か条」の徹底 ・図書の貸し出し一人平均50冊 ・家庭学習の定着（リフレット、スマイルの活用） ・体育朝会とロング昼休みの活用（体力向上） ・落ち着いた学級づくり	3 前年度の成果と課題 成果 ○高学年で一部教科担任制を行ったため、学級の枠を超え、共通指導することができた。 課題 ●いじめ、不登校のない学校目指して、組織的に対応していくための体制を強化する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校経営方針に基づき全教職員が、それぞれの立場で学校運営に取り組むことができた。 ●校務分掌組織の改善
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○校内研修等での指導を日々の授業に生かすことで、授業力の向上を図りつつある。 ●幼保小中連携の推進
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○コロナ禍であるが、保健・安全計画にのっとり進めることができ、大きな事故、怪我が発生していない。 ●むし歯の治療率の向上
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会や職員会議を通して教育公務員としての在り方について指導を行い、事故0を継続している。 ○安全点検で不具合があった箇所について修繕を計画的に行うことができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だよりやHPで児童の様子について家庭や地域に発信することができた。 ●コロナ禍であるが、地域との連携をさらに深め、地域と共にある学校づくりを進める。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校との乗り入れ授業（体育）を通して、中学校の先生との交流を図ることができた。 ●コロナ禍であるが、幼保小中との交流の仕方を考え進める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○特別の教科道徳や外国語等新教育課程の主旨に基づき計画的に授業を進めることができた。</p> <p>●「主体的・対話的で深い学び」をさらに進めていく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○児童の基礎学力の定着向上を目指し各教科の授業を行うことができた。</p> <p>●基礎・基本の定着に向け、今後も継続して学習活動の研修を実施していく。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○特別の教科道徳の学習について、コロナ禍のため計画が変更になったが、授業を進めることができた。</p> <p>●指導と評価についてさらに研修を進めていく必要がある。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<p>○外国語担当を主としてALTと協力して効果的に授業を行うことができた。</p> <p>●教材の利用、表現する指導と書く指導について研修を深める必要がある。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○コロナ禍であるが、できる範囲での児童同士の交流を深めることができた。</p> <p>●学級活動を通して学年学級経営の充実を図る。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○コロナ禍のため計画に変更があったが、学習を進めることができた。</p> <p>●学校の特色を生かした内容の充実を図っていく。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<p>○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で共有し、指導に当たることができた。</p> <p>●積極的な生徒指導の充実をしていく。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<p>○キャリアパスポートを年間計画に設定し計画的に進めることができた。</p> <p>●中学校との連携を深める必要がある。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<p>○個別の支援計画をもとに課題のある児童に対して個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>●学級学年内での自己存在感を高めていく必要がある。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<p>○図書館司書による図書館の整備により読書活動の意識が向上し、貸出冊数が増加した。</p> <p>●図書館教育の充実を図る。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<p>○プログラミング学習を年間計画に沿って行うことができた。</p> <p>●教職員のリテラシーの向上のための研修が必要である。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<p>○計画に沿って、各学年で人権に関する授業を実施することができた。</p> <p>●人権感覚育成プログラムを生かした授業の充実を図る。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	・中学校教員の乗り入れ授業 ・幼稚園、保育園との交流学習 ・3校合同研修	B	○体育での乗り入れ授業を実施したことで中学校の先生の指導方法の理解や児童の中学校への意識を向上することができた。 ●コロナの感染拡大を防ぎながらの交流計画の立案を図る。
	読書活動・家庭学習の充実	・児童貸し出し冊数平均50冊	A	○朝読書の時間や図書館での授業を通して読書に親しむことができています。 ●児童が読む本の内容の充実を図る。
	特別支援教育の推進	・関係機関との連携、活用 ・さわやか相談日の活用	A	○巡回相談やスクールカウンセラーとの相談を活用し、児童個々の実態に応じた支援を行うようにしている。 ●児童の特性を生かすため特別支援教育の視点を生かした指導力の向上を図る。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○高学年で一部教科担任制を実施したため、学級学年の枠を超えて指導することができた。
○小中の連携として、乗り入れ授業（体育）を行ったことで中学校への意識の向上をはかることができた。
○新型コロナウイルス感染拡大に向けて児童の健康観察等を行い組織で対応することができた。
○学校だよりやHP等で児童の様子を紹介することで、学校生活の様子が分かれると答えた保護者が昨年度とほぼ同じ97%になった。
○「あいさつができ、元気に遊ぶ子に育っている。」と答えた保護者が、昨年度より8%増加し95%になった。
○「思いやりのある子」については、昨年度とほぼ同じ水準の97%であり、コロナ禍の中でも思いやりを持って日々の活動を行うことができていた。

6 次年度の改善策

●読書活動の推進をさらに図り、本を読んでいない児童にも興味を持って読書活動をするように進めていく。
●いじめ、不登校のない学校を目指して生徒指導、道徳、人権教育を中心として教育活動を充実させ、児童一人ひとりが、安全安心な生活をする学校ができる学校の組織体制にする。